



春

1 四季折々の山形市

ミニ知識 38

市の花＝ベニバナ 市の木＝ナナカマド

昭和49年、市制施行85周年を記念して制定されました。初めに選考審議会で候補となる木と花を4種類ずつ選んだものの中から一般公募を行い、最も支持の多かったものが市の木、市の花として選ばれたのです。

歴史的にも産業的にも山形市と深い関係のあるベニバナには産業の振興が、そして、7回電に入れても燃えにくいともいわれるナナカマドには災害に強い都市への市民の願いが込められています。ナナカマドは成長が早く実がきれいなことなどから、公園に植えられたり街路樹として植栽されたりしています。



↑ベニバナ

やっぱり山形は “花の山形”

山形の春は、「まんずさく」といわれるマルバマンサクの開花に始まります。（「豊年満作」に由来するという説もあり）

万年雪をいただく月山や葉山、朝日の連峰が遠望できる馬見ヶ崎川の堤防には、延々 6kmにも及ぶサクラの並木があり、毎年、見事な花のトンネルを作り出します。

もう1つ、山形の春と言えば「果樹の花」。3月下旬にモモが咲き始めると、その後、ナシ、サクランボ、リンゴと競い合うように咲きます。

里の緑が深まるころには、山々も新緑が萌え出ずる春を迎えます。



↑ナナカマド

フィールドワーク

「マンホールのふたWatching」

町中に、右の写真のようなマンホールのふたがあります。山形市の花「ベニバナ」がいろいろな形にデザインされています。探してみましょう。



夏

山形の初夏を彩る 生き物たち

千歳山でヒメサユリの開花が初夏を告げるのは、モリアオガエルのオタマジャクシが雨の雫と一緒に、ポトリと池に落ちるころ。

西藏王ではエゾハルゼミがにぎやかに鳴き始め、盃山のチョウや西山のトンボたち、そして、戻って来た夏鳥たちの姿も日に日に色濃くなっていきます。

高瀬の里でベニバナが開花すれば、山形は夏本番まであとわずかです。



↑ヒメサユリ



↑モリアオガエルの卵塊

フィールドワーク

東沢ほたるの里で ホタルを鑑賞しよう。

東沢ゲンジボタル保護地は、平成元年「ふるさといきものの里100選」（当時の環境庁）に選ばれました。ここにある「東沢ほたるの里」では、毎年、6月中旬から7月中旬ごろまで、ホタルが鑑賞できます。ゲンジボタルはヘイケボタルと異なり、2～3秒ほどの長く明るく強い光を放ち、その飛び交う光景は正に神秘的です。



ミニ知識 39

清流の証「バイカモ」

バイカモ（梅花藻）は、キンボウゲ科の多年草で、6月頃から秋の初めにかけて文字どおり梅の花に似た小さく可憐な白い花を咲かせます。

山形五堰では、下水道の整備やいろいろな団体・学校などによる地道な清掃活動のおかげで、清流でしか育たないバイカモが徐々に増えています。山形五堰は、平成18年に国の「疎水百選」にも選ばれました。（P37参照）



夏



サワラン



ベニバナイチゴ



トウホクサンショウウオ



チングルマの花と実

ミニ知識 40

高山植物の女王「コマクサ」

熊野岳の山頂付近には、火山岩塊・砂礫に覆われた火山荒原が発達しており、他の植物が侵入していない砂礫地には「高山植物の女王」ともいわれるコマクサが見られます。

そこには、メイゲツソウやコメススキが侵入し、次いで、ミネズオウ、ガンコウラン、ツガザクラの仲間、さらに、ミネヤナギ、ミヤマハンノキ等の低木林が定着し、やがて、ハイマツが侵入し、安定した植生となっていきます。



コマクサ 市民写真作品



アブラハヤ

暑い山形盆地と涼しい蔵王

7月から8月にかけて山形市の気温はぐんぐん上昇し、涼を求めて馬見ヶ崎川の河畔に憩う家族連れでにぎわいます。流れの緩い平瀬やよどみに生息するアブラハヤは子どもたちの釣りの対象となります。

一方、蔵王の6月から9月は**高山植物**と**お花畑**の宝庫です。ツマトリソウ、ベニバナイチゴ、ハクサンチドリ、イワカガミ、イワショウブ、オキナグサ、チングルマ、サワラン、ワタスゲ、ツガザクラ、コマクサ等々、数え切れないほどの植物たちが個性を主張し合っています。

秋

ミニ知識 41

渡るチョウ「アサギマダラ」

渡りをするチョウとして知られるアサギマダラは、夏ごろ蔵王山に多く飛来します。

このチョウは、亜高山帯を中心に自生するキク科の植物であるヨツバヒヨドリ^{はね}の蜜を吸うためにやってきます。生態にはまだ謎が多く、翅に名前等を書いて再放蝶し、その飛翔範囲を調査するマーキング観察会が行われています。

これまでに蔵王山でマーキングされたものが約2200km離れた沖縄県与那国島で発見された記録があります。

総合学習で放蝶したアサギマダラの再捕獲の話題を報じる新聞記事
(山形新聞2009/11/18朝刊)

チョウすごいね

アサギマダラ放した蔵王三小児童ら



アサギマダラ



駆け下りてくる山形の秋

馬見ヶ崎川の河川敷での芋煮会とともに始まる山形市の秋、蔵王や西山の草原や林の中では、ハギやススキ原が会場となって、バッタやコオロギ、カンタンやツクムシたちの音楽会がにぎやかです。

山から人里へと秋が下りてくるころには、里山の雑木林は色づき始め、キオンやゴマナなど、日照時間が短くなると開花する**短日性植物**が咲き出します。木々は色とりどりの実を結び始め、さまざまな方法で命をつなぎます。ヌスビトハギは人や動物の体について、真っ赤なウメドキやガマズミは鳥に食べられて…。

紅葉前線は、高山から山腹へ、そして山麓へと一気に駆け下りてくるのです。



カンタン

セスジツクムシ



ガマズミ

冬の自然を観察しよう

比較的暖かく天候の安定する3月ごろ、かんじきやスノーシューを履き、自然観察指導員の話に耳を傾けながら、冬の動物たちの暮らしを観察しに出かけてみてはいかがでしょうか。

雪の上に残る足跡から動物の種類を見分けたり（アニマルトラッキング）、冬の動物たちの食べ跡、落とし物を探したり、春の準備をする植物たちの様子を観察したり…、そこには、樹木の葉が落ち、雪で覆われた季節だからこその森の自然の楽しみ方があります。



↑ウサギの足跡



↑スノートレッキング

ミニ知識 42

山形県の獣「ニホンカモシカ」

日本がまだ大陸と陸続きであった時代に入ってきて住みついたものと考えられているニホンカモシカは、あまり形が変わらないままに現在の姿になっており、生きた化石としてたいへん貴重な動物であるとされています。山形市周辺の山麓部にも多数生息しており、時折、市街地にまで足を延ばし、市民の目を楽しませてくれます。ウシ科に属し、のっそりした体格ながら、動きは敏捷で急な岩場でも平気で行動します。

ところで、夏場はほとんどの草や木の葉を食べて生活していますが、山々が雪に閉ざされる冬の間、冬眠をしないニホンカモシカたちは何を食べているのでしょうか。実は、常緑低木のヒメアオキやハイヌツゲなどを食べて生きているのです。



↑ニホンカモシカとヒメアオキ

厳しくも楽しい 山形の冬



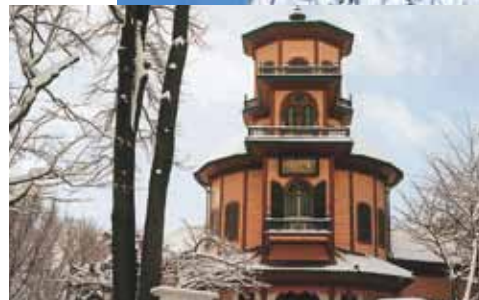
↑ツグミ

蔵王や雁戸の山々が冠雪を抱くころ、ツグミやシロハラなど、北からやってきた冬鳥たちが、もぎ残したカキやリンゴなどを食べているのを見かけることがあります。

市街地に初雪が舞い降りる11月下旬ごろになると、いよいよ、山の動物たちにとっては、食べ物不足の厳しい季節の到来を迎えます。



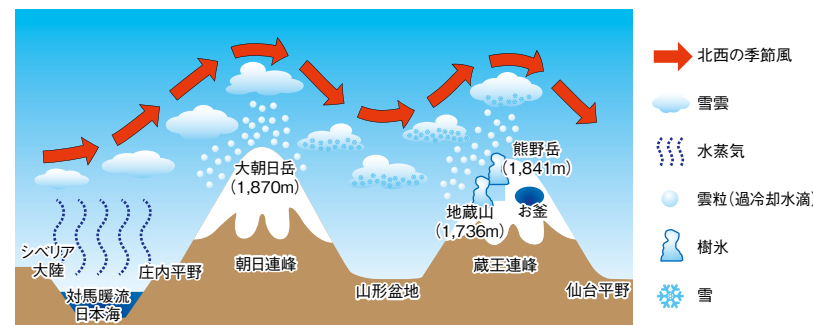
↑山寺の雪景色



↑雪の三層楼 市民写真作品
(旧済生館、現山形市郷土館)



↑清風荘(通称もみじ公園)(旧宝幢寺)庭園



蔵王の樹氷の着氷は12月中旬ごろから始まり、2月中旬から3月ごろに最も大きく成長します。この時期は、雪の表面も堅くなり、スキーやスノーボードに最も適した時期となり、樹氷原の間を縫って雄大な滑降を楽しむことができます。

このように、山形の冬の楽しみ方はいろいろです。みなさんも、自分なりの楽しみ方を探してみましょう。

冬

コラム：樹氷

氷点下まで過冷却が進んだ水滴が吹雪と一緒にアオモリトドマツなどにぶつかり、そのまま凍りついたものが「樹氷」です。地元ではもともと「雪の坊」とか「雪こぶ」と呼ばれていました。蔵王山のほかは八甲田山、八幡平など東北地方の一部の山岳に限って見られる世界的にも特異な現象です。

蔵王の樹氷を世に紹介したのは旧制山形高校の安斎徹教授です。教授の写真に感動した山岳映画家塚本閑治が映画を作り、さらに山岳映画の巨匠アーノルド・ファンクが蔵王の樹氷を織り込んだ映画を世界に紹介したことから広く知られるようになりました。また、蔵王は、昭和25年に日本観光地百選で第1位に選ばれて以来、樹氷とスキーのメッカとして全国に知られるようになりました。

樹氷は、気温－5℃以下の環境で生じ成長しますが、形が似ているため、「エビのしっぽ」と呼ばれます。では、エビのしっぽが伸びるのは、風上に向かってでしょうか、それとも風下に向かってでしょうか。正解は、風上です。風が強いほど、風上に向かって羽毛状に成長するのです。

樹木が完全に樹氷や雪によって覆われたものは「アイスモンスター」とも呼ばれ、その景観を求めて国内外からたくさんの観光客が訪れます。例年、2月上旬から3月上旬にかけてが最も見応えがありますが、近年は地球温暖化により、生成期間の短縮や生成高度の上昇、そして樹氷のスリム化が生じているのではないかと指摘があります。

(山形大学環境保全センター発行 環境保全No.15「樹氷・蔵王特集号」参照)

ミニ知識 43

樹氷のできる条件

樹氷の生育には、いくつかの条件を満たさなければならず、限られたところにしかできません。

条件1：アオモリトドマツが自生している
条件2：雪が多く降る所。でも、余り多すぎてもアオモリトドマツが自生できないのでだめ

条件3：冬型（西高東低）の気圧配置で、強い西風が吹くときにできる

条件4：山の西斜面であること

